

## 『チャタムヒタキ 50 年ぶりにピット島に復活』

かつて、世界で最も絶滅の淵にたった固有種である野鳥、チャタムヒタキ *Petroica traversi* は、ニュージーランド南島に浮かぶチャタム諸島のピット島に、半世紀の時を経て蘇った。

最後に生き残った 14 羽の野鳥は、ニュージーランド野生保護局の野鳥繁殖保護対策により、間近のランガティラ島からピット島へ移動させられた。40 ヘクタールの地域が、特別に輸入されたネコとニュージーランド固有種の飛行できない鳥-捕食性のクイナとを閉め出すためにフェンスで囲われた。

ネコやネズミの天敵が持ち込まれたことにより、その固体数が多数殺害された後、チャタムヒタキの物語は、世界でも類がない劇的な野生救出作戦の一つだった。1980 年には、世界に 5 羽のチャタムヒタキだけがいるだけだった。それも実際に営巣していたのは、たったの一番（ひとつがい）だった。

1981 年から、ニュージーランド野生保護局職員は、きわめて小さな生き残りのチャタムヒタキをネコのいない近くのマングレ島へ移植し、多産な雌の “青おばさん”（訳者注 1）の卵を別種の里親チャタムトムテット *Petroica macrocephala*（訳者注 2）へ抱卵させた。むずかしい計画とランガティラ島への遠い移送は、この固有種特有の黒いチャタムヒタキを絶滅の淵から救った。マングレとランガティラの 2 つの島とも、今では 250 羽以上のチャタムヒタキの固体数にあふれ、第 2 の生息場所となった。

「この繁殖の回復劇は、世界でも類がない、注目すべき画期的出来事です」とウェリントン保全省職員アラン・ロスは言った。「この救出はチャタムヒタキの劇的な物語であるのみならず、ピット島民の価値ある自然遺産の足跡なのです」……………BirdLife より

### 【訳者付記】

この記事は、南緯 44 度、悪名高い暴風帯にあるチャタム諸島での、絶滅危惧種、チャタムヒタキの救済物語です。野生のまま、最小の固体群（1 番）からの極めて安上がりな復活劇です。…眼光紙背に徹する程の素養がないため、誤訳の部分はご指摘下されれば幸いです。

〈訳注 1〉

チャタムヒタキの “青おばさん” は、1983 年から 84 年に落鳥するまで毎年繁殖し、この種を救った。現存するすべてのチャタムヒタキは、彼女の子孫なのだ。

〈訳注 2〉

チャタムヒタキと同種。独立亜種。テットはシジュウカラ類を指す。

[チャタムヒタキの生態]

寿命:6-13 年、全長;15 cm、食餌;幼虫や虫だけでなくアブラムシなどの昆虫を食す、繁殖;生涯、何度も番う。メスは普通 2 個の卵を産み、雛を失えば、しばしば、再営巣する。

04/09/21 訳ス

